

週刊「中国・アジア」ダイジェスト

2011.08.29〜09.02

記事の詳細は、情報検索サービス『キジサク』でご覧になれます

*記事は東京発行・最終版

CHINA

8月29日(月) □

■ 空気清浄機で中国攻略

パナソニック・シャープ

空気清浄機の新たな市場として、中国に熱い視線を向けている。パナソニック、シャープとも2011年度は10万台以上の販売を計画。衛生意識の高まりや高層住宅の増加などで需要拡大。(9面)

■ 中国、商業化に高い壁

みずほ総研レポート／新産業政策

みずほ総合研究所は、レポート『中国の新産業政策』で、中国は国を挙げてイノベーション力を強化しようとしているが、商業化までに乗り越えるべきハードルは高いと分析した。(22面)

8月30日(火) □

■ 軸受・素材を海外生産

大豊工業／自動車エンジン用

大豊工業は、自動車エンジン用すべり軸受素材のバimetalと樹脂コーティング軸受を海外生産する。バimetalは中国に移し、素材から一貫生産。軸受は欧米の2工場で生産する。(5面)

■ 土木機械の杭の圧入工法を普及

技研製作所／上海に事務所

技研製作所は、9月1日付で上海事務所を開設する。土木機械の杭の圧入工法を普及させる。駐在員4人。同工法の技



術支援のほか、国際圧入学会や地元大学と共同で説明会を開く。(8面)

■ 中国石油化工、純利益11.9%増

1—6月／原油生産5.4%減

中国石油化工(シノペック)の2011年1—6月の純利益は前年比11.9%増の411億7000万元(約4900億円)。売上高は31.7%増の1兆2200億元。原油の生産は5.4%減の1億5632万バレル。(時事＝17面)

8月31日(水) □

■ 豪マナッセンフーズを買収

上海市当局系／約435億円

上海市当局系の中国食品大手・光明食品は、豪の食品大手マナッセン・フーズの株式75%を5億3000万豪ドル(約435億

円)で豪投資ファンドから取得。30日付の上海証券報が伝えた。(時事＝3面)

■ 大阪のパレードカー

「上海観光祭」に出展／大阪市

大阪시는、上海市で9月10日から開かれる世界各地の観光を紹介する祭典「上海観光祭」に、大阪城や市営地下鉄などを模したパレードカーを出展する。



大阪城などを模したパレードカー(イメージ)

中国から観光客を呼び込む。(31面)

■ スマホ強化へ中・米に拠点

EMS工場集積／NECカシオ

NECカシオモバイルコミュニケーションズは、スマートフォン強化のため、米国と中国に事業拠点を年内に開設する。EMS工場が集積する中国に拠点を設けて出遅れを挽回。(9面)

9月1日(木) □

■ 沖縄数次びザ900件

中国人個人観光客／滑り出し順調

7月にスタートした中国人個人観光客に対する沖縄数次びザ発給が、7月1日から8月3日までで900件となった。昨年7月は50件。「非常に順調な滑り出し」(外務省領事局)。(3面)

■ 中国に部品開発会社

アイシン精機／現地ニーズ迅速対応

アイシン精機は、江蘇省南通市に自動車部品の開発会社を設立する。中国向けの開発の大半は日本で手がけてきたが、現地で自動車メーカーのニーズに合った部品を迅速に設計する。(5面)

■ 日東利機、中国に3販売拠点

摩擦圧接機を販

日東利機は、2014年までに中国の販売拠点を3カ所にする。三栄商事との現地法人を9月に稼働させた後、上海市と大連市にも支店を新設する。建機部品の製造向け摩擦圧接機を販

■ 中国繊維大手に出資

伊藤忠／生産基盤を活用し世界展開

伊藤忠商事は、中国繊維大手企業グループ・山東如意科技集団と資本提携する。約153億円で株式の30%を取得す

る。中国での内販推進などに取り組む。生産基盤を活用し世界展開。(19面)

■ 超純水製造装置、上海で製造

伸栄化学産業／日系の半導体・食品

伸栄化学産業は、中国で純水・超純水製造装置の製造を始めた。上海に工場を新設した。日本からの輸出を現地生産に切り替える。半導体や食品関連などの日系企業向け。(27面)

9月2日(金) □

■ 京二、中国製の切削工具販売

脱・内需型モデル／安価で高品質

京二の中国販売法人の京二(上海)機電科技が中旬にも始動する。現地に進出する日系企業に安価で高品質な中国製の切削工具を販売する。内需型事業モデルの殻を破る。(6面)



京二の中国現法が入居するビル(イメージ)

■ 東研サーモ、生産子会社を増強

隣接地に新工場／熱処理需要の伸び

東研サーモテックは、江蘇省蘇州市の生産子会社の東研(蘇州)熱処理を2012年4月までに増強する。隣接地に新工場を建設する。自動車や建機の大規模の熱処理需要の伸びに対応。(7面)

■ 上海・複合材料見本市に出展

帝人／次世代送電網向け

帝人は、上海で開催される複合材料見本市に東邦テナックス、テイジン・アラミド・アジア(中国)と共同で出展する。次世代送電網を構成する高圧電線の芯材などを展示する。(10面)

● ひと

近隣県にもPR

中国の格安航空会社・春秋航空は、10月から高松—上海便を木・日曜に変更する。「一層の利用促進と早期の路線定着ができれば」と期待するのは香川県知事の浜田恵造さん。一方で「中国に拠点を置く企業にセールスもしたい」と近隣県に対するPRも積極化。(1日＝31面)

側面から中国攻略

「米国のトレード・ステーションを買収したことで、中国事業を本格化する」と、マックスグループ社長の松本大さん。米国株やトレーディングツールを中国の証券会社に提供する。「これまでの正面から行くプランよりも、かなり早い」と手応え。(2日＝15面)

ASIA

8月29日(月) □

■ タイに環境工学科を新設

東工大／連携大学院に

東京工業大学は、2012年6月、タイで同国の科学技術開発機構などと運営する連携大学院に環境工学科を新設する。国際的な環境への意識の高まりで、タイでも環境工学教育のニーズ。(1面)

■ ミクニ、東南アで増産

スズキ・三菱自から受注

ミクニは、東南アジアで4輪・2輪車の部品生産事業を拡大する。約30億円投資。タイでは2012年までに4輪車分野に参入。スズキと三菱自動車から吸排気系部品などを新規受注したため。(6面)

■ ミクニの東南アジアでの主な投資計画

	投資額	内 容
インドネシア	18億円(14年まで)	2輪車用の電子式燃料噴射装置を生産 12年に年240万台分
タイ	4億円(12年まで)	4輪車用の吸排気系・エンジン部品などを生産 12年に3部品合計で年100万個弱
	6億円(同)	2輪車用の電子式燃料噴射装置を生産 12年に年140万台分

■ インドの環境配慮型都市を調査

三菱重工／タタと覚書

三菱重工は、日本政府が支援するインドの環境配慮型都市構築の事業化調査で、インドのタタグループと覚書をつ結んだ。工場の省エネや廃棄物処理、電気自動車、太陽熱発電など。(7面)

■ 鈴木金属、タイで鋼線増産

自動車用ばね／習志野から設備移設

鈴木金属工業は、タイの子会社で、自動車用ばねなどの材料となる鋼線の生産能力を増強する。国内の主力拠点である習志野工場から伸線機を移設。品質検査用の装置類も新たに導入。(12面)

■ 富士物流、マレーシアに倉庫

保税機能／空調完備

富士物流は、マレーシア北部の工業団地クリムハイテクパークに日系物流企業として初めて自社倉庫を建設する。2012年4月に開設。保税機能を持ち、電子・精密機器に対応する空調設備。(19面)

■ 台湾社製の電動バイクを販売

イオン／4時間の短時間充電

イオンは、自転車専門店「電動バイク」の販売を始めた。台湾最大のモーターサイクルメーカー、キムコ社製。19万8000円。4時間充電と短時間。大震災以降、移動手段として注目。(19面)

■ 政策担当の幹部育成

ASEANの後発加盟国

アジア開発銀行研究所は、2012年からASEANの後発加盟国であるCLMV諸国(カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム)の政策担当者を対象に、能力開発育成事業に乗り出す。(22面)

■ ミャンマーに市場調査拠点

アーク・エンター／タイ・プラスワン

タイを拠点にコンサルティング事業を展開するアーク・エンタープライズは、ミャンマーの首都ヤンゴンに拠点を設置した。進出する日系企業向けに人件費や工業団地など市場調査。(22面)

8月30日(火) □

■ 「新興国」軸に投資積極化

点検・設備投資

新興国市場を主体に設備増強は続いている。自動車10社の2011年度設備投資額は合計で前年度比31%増の2兆560億円と拡大。新興国では中南米、東南アジアでの工場建設や増産が目立つ。(1面)

自動車10社の2011年度の設備投資計画		
社 名	投資額	主な投資対象
トヨタ	7,200(12.1)	ブラジルや米ミシシッピの新工場建設、次世代環境車など
ホンダ	4,300(38.1)	メキシコやベトナムの新工場建設、HVの新機種導入など
日産	4,100(31.4)	中国での増産、EV向けの電池生産の新工場建設など
スズキ	2,100(61.2)	インドやタイの新工場建設、インドネシアでの増産など
三菱自	990(88.6)	タイの新工場建設、EVの生産設備など
マツダ	800(79.0)	新型車生産、メキシコ新工場建設など
ダイハツ	650(60.1)	新型車生産、インドネシア新工場建設など
富士重	600(39.2)	国内工場の増産など
日野自	600(2倍)	増産対応、茨城県古河市での新工場建設など
いすゞ	470(59.9)	タイの塗装工場新設、国内工場の設備更新など

単位は億円、カッコ内は前年度比増減率%、トヨタの投資額はダイハツと日野自を含む

■ スズキ、現調80%超

インドネシア工場／4輪車部品

スズキは、インドネシア工場の4輪車部品の現地調達を60—70%から、2012年に80%以上に引き上げる。同国のエコカーブロに参画。軽自動車ベースの新車種投入と生産能力の増強を計画。(3面)

■ レント、タイ営業所を拡充

産機レンタル／工場団地に開設

レントは、産業用機械レンタル事業で、タイの営業拠点を拡充する。イースタンシーボード工場団地内に営業所を設ける。高所作業車やフォークリフトなど産業用機械類をレンタル。(8面)

■ 半導体販売で代理店契約

高千穂交易と韓国・泰進技術

高千穂交易のグループ2社は、韓国の泰進技術と代理店契約を結んだ。泰進技術のアナログ半導体「HTCCKorea」ブランド製品を、中国の日系企業や現地系企業に販売する。(9面)

■ ベトナムに工業団地

大和ハウスなど3社／150社見込む

大和ハウス工業、双日、神鋼環境ソリューションの3社は、ベトナムのドンナ

イ省でロンドウック工業団地を整備する。2013年夏にインフラが完成。100—150社の進出を見込む。(19面)

■ 日台M&A支援で協力

大和証券CM／行政院と覚書

大和証券キャピタル・マーケットと台湾の行政院経済建設委員会は、日本と台湾企業によるビジネス支援などで覚書を交わした。M&Aや新規株式公開(IPO)支援を強化。(21面)

覚書調印後、握手する日比野大和証券グループ本社社長④と劉主任委員(大臣)



■ 韓国大宇証券、日本に再進出

来月にも東京支店／韓国の株・債券

韓国の大宇証券は、9月中にも日本の営業拠点として、千代田区丸の内に東京支店をオープンする。日本の機関投資家向けに、韓国の株や債券を取り扱う。日韓企業間のM&Aを手がける。(21面)

■ 初田製作所、バンコクに現法

産機の自動消火システム

初田製作所は、タイ・バンコク市に現地法人「サイアムハツタ」を設立した。産業機械用の自動消火システムなどのメンテナンスと新規顧客を開拓。将来は生産拠点の開設も視野に。(31面)

8月31日(水) □

■ 商用車部品 - 日野、海外製5割

いすゞ、現地調達40%超

日野自動車は、2015年度までに部品調達で海外製を2割から5割以上に、いすゞ自動車は2年以内にタイ、インドネシアで生産するトラックの現地調達率を25%程度から40%以上に高める。(1面)

いすゞはタイで生産するトラックの部品現地調達率を40%以上に高める



■ 宇部興産、タイヤ原料2割増産

タイ新工場を検討／7万バレル規模

宇部興産は、2013年8月までに自動車用タイヤ原料の合成ゴムの生産能力を24%増の年26万9000バレルに。約40億円投資。タイでは同5万—7万2000バレル規模の新しいBR工場建設を検討。(1面)

■ 日清製粉、印でパイオ拡大

オリエンタル酵母と現法設立

日清製粉グループ本社と完全子会社のオリエンタル酵母工業は、インド・ムンバイに営業拠点となる現地法人を10月にも設立。同国へ輸出している診断薬原料などのパイオ事業を拡大する。(3面)

■ 高田工業所、東南アで調査開始

製鉄・化学プラント／計画続々

高田工業所は、東南アジアで製鉄や化学のプラント新設計画が相次ぎ具体化することに対応し、現地調査を開始した。国内製造業の海外展開を、プラント建設やメンテナンス業務で支援。(4面)

■ 「デミオ」ベトナムで生産

マツダ／年2000台

マツダは、ベトナムで小型車「マツダ2(日本名デミオ)」の生産を10月上旬に始める。日本から大半の部品を輸入して組み立てる完全ノックダウンで、当初は年2000台を計画。(5面)

■ マレーシアでバイオエタノール

三井造船／現地バーム油最大手と

三井造船は、2013年にもバームヤシの殻を用いたバイオエタノール製造プラントのEPC(設計・調達・建設)事業に乗り出す。マレーシアのバーム油最大手と製造技術の事業化調査。(6面)

■ インド社から大型乾燥機受注

月島機械／PTA工場向け

月島機械は、インドの石油精製・石油化学大手リライアンス・インダストリーズから高純度テレフタル酸(PTA)工場向けに大型乾燥機を受注した。10億円以上とみられる。(6面)

■ 台湾に新工場を建設

東レフィルム加工／年1万7000バレル

東レフィルム加工は、台湾に設立した表面保護フィルム会社で新工場の建設に着手した。表面保護フィルムを2013年1月から生産を開始し、夏までに生産能力を年1万7000バレルに拡大する。(15面)

■ ベトナム事業で栃木の2社連携

板金・切削加工

栃県県鹿沼市の中小板金、切削加工の2社が、連携してベトナムで事業を拡大する。青和現代彫刻が7月にホーチミン市で新工場を稼働。年内にも同工場にエヌ・エステクニカルが進出。(28面)

9月1日(木) □

■ シーシーアイ、国内外に3工場

インド・ブラジル・九州

シーシーアイは、自動車用のクーラント液とブレーキ液の生産拠点を国内外で新設する。2012年夏までに九州北部で工場を稼働するほか、ブラジルとインドでも13年までに工場を建設する。(5面)

■ 低品位炭の改善プロ

月島機械・双日／インドネシアで

月島機械と双日は、インドネシアで低品位炭を用いた火力発電所向けに、乾燥機による効率改善プロジェクトの開拓を始めた。低品位炭の含有水分44%を10%にした場合、年25万バレルを削減。(6面)

■ タイの関係会社を子会社化

旭ダイヤモンド工業

旭ダイヤモンド工業は、タイで同社製

ダイヤモンド工具の販売を手がける関係会社、旭ダイヤモンドタイを子会社化する。所有割合を現在の5.5%から90.0%に引き上げる。(6面)

■ 「エアアジア・ジャパン」設立

ANA格安航空／新需要を開拓

全日本空輸は、成田空港を拠点にする格安航空会社「エアアジア・ジャパン」を設立。新社長の岩片和行ANAアジア戦略室長は「飛行機に乗ることのなかった方々新しい需要を開拓」。(19面)

■ ベトナムで保険仲介事業

豊田通商／日系の需要増大

豊田通商は、ベトナムで保険仲介事業に進出する。合併会社が監督官庁から免許を取得。ベトナムでは日系企業の進出が相次ぎ、高度なリスクマネジメントや保険プログラム需要が拡大。(19面)

9月2日(金) □

■ 新興国で研修、市場も調査

アサヒグループHD／人材育成プロ

アサヒグループHDは、人材育成プログラムの一環で、インドやベトナムなど新興国へ社員を派遣する。6カ国に7人の社員が出発。約3カ月の語学研修のほか現地での市場調査を実施。(1面)

■ イビデン、韓国に初拠点

半導体製造用ルツボ／年産6600バレル

イビデンは、韓国浦項市に半導体製造用ルツボなど特殊炭素製品の工場を新設する。約150億円投資。2013年秋稼働。年産能力6600バレル。国内と合わせ同1万1500バレル。韓国では初の拠点。(2面)

■ フィリピン団地に貸し工場

丸紅が保有／現地企業が環境整備

丸紅が保有するフィリピンの工業団地「リマ工業団地」で現地企業による開発が加速。賃貸工場開発業者のE Z Pディベロップメントは、中小企業向け賃貸工場を8棟建設、9月末稼働。(3面)

■ テレビ会議で日台商談会

来月開催／台湾貿易センター

台湾貿易センターは、10月11日「電子産業ウェブ商談会」を開く。テレビ会議システムで、日本のバイヤーと台湾のサプライヤーに商談の場を提供。東京事務所は5社の商談を受け付ける。(3面)

■ 現代自からキーセット受注

ユーション／新車向け

ユーションは、韓国の現代自動車から鍵の差込口などの「キーセット」を受注した。ユーションが現代自から受注するのは初めて。現代自が2013年にも市場投入する新型車向けに供給する。(5面)

■ 台湾の火力発電を共同受注

三菱重工／1000億円超

三菱重工は、台湾エンジニアリング最大手のCTCIと共同で、台湾電力向け石炭焚き超臨界圧火力発電所の建設プロジェクトを一括受注した。三菱重工分は1000億円超とみられる。(6面)

■ インドに厚板の加工拠点

メタルワ／月2000バレル

メタルワは、厚厚板の加工拠点をイ

今回は - 12日(月)は新聞休刊日ですので、「中国・アジア ダイジェスト」面の今回は19日(月)に掲載します。

ンドに設置すると発表した。厚板の切断や溶接、機械加工などの装置を導入し、2012年8月に稼働させる。約30億円投資。加工能力は月間2000バレル。(10面)

■ 中小のアジア進出支援

りそな銀行／相談月200件

りそな銀行は、中堅・中小企業のアジア進出に対する支援を本格化する。支援組織の利用を喚起し、相談業務を拡大。相談件数を約7割増の月200件に増やし、アジア展開を支える。(15面)

■ 日生、インド社と提携

リライアンス・キャピタル／金融事業

日本生命保険は、インドの大手企業グループ傘下・リライアンス・キャピタルと協業することで合意。生命保険以外の金融事業で共同ビジネスや人材交流などで連携、事業拡大につなげる。(15面)

● ひと

心のケアが重要

「東日本震災はガバナで聞いて、胸が悲しみで一杯になった。ささやかながらご支援したい」と、来日したタイのタクシン元首相。被災地を訪問し、宮城県知事らと懇談。首相時代のタイ大津波を踏まえ、心のケアの重要性やタイでの受け入れを表明した。(29日＝22面)

部品素材関連企業を優遇

朝鮮半島東南部の韓国・浦項市が、日本企業の誘致に力を入れている。朴承浩市長は「日本から部品素材関連企業を誘致するための工業団地を浦項につくることになった。税金はもちろん、敷地提供についても他地域以上の優遇した条件を用意している」。(29日＝22面)

父親・冥利

「東日本大震災の発生後、インドネシアの子どもたちから心配する声が相次いだ」と話すのは松山鋼材社長の向後賢司さん。子どもたちとは働いていた研修生のことだ。先日、現地に赴くと、20人近い冥利研修生から大歓迎を受けた。父親・冥利に尽きるよう。(31日＝30面)

タフでないと生き残れない

「1年前にタイを見ていたから...」と言葉を濁す徳島カム社長の河野誠介さん。7月にインドネシア・ジャカルタの工業団地を視察。「インドネシアは鉄道網などインフラでタイに遅れている」。同時に「海外ではあらゆる局面でタフでないと生き残れない」と痛感。(2日＝21面)